

吉祥宝船

[伽耶院の紹介](#) (作成：小田桐)

伽耶院（兵庫県三木市）でお正月に授与される宝船の図です。七福神ではなく、宝物が積み込まれています。下の文は、伽耶院作成の説明です。説明文の中の「ながきよの とをのねふりの・・・」は回文になっています。



古来より縁起物として、松の内に南天の葉と共に宝船図を飾ることによって、その年の財福到来、諸願成就を祈り、或いは一月二日の夜、宝船図を押し『ながきよの とをのねふりの みなめさめ なみのりふねの おとのよきかな』と記したものを枕の下に入れて眠れば、良夢は正夢となり、凶夢は猿が食するという言い伝えを持っているのが吉祥宝船図である。

帆に掲げられている「猿」字は、凶夢を食すると伝えられる動物であり、同じく帆に画かれた二匹の百足むかでは、七福神の中でも邪を破り福を招くという毘沙門天を象徴している。
(百足は毘沙門天のお使い)

この古図はその昔、禁裏御所より下賜された御図であると言われ、文字は明暦の帝の宸翰、絵は有栖川宮の御筆と伝えられている。

宝船図は吉祥招福を祈って一年間御家庭におまつり頂き、一年が終れば古札納め所にお納め下さい。

伽耶院